

# 付着生物ラーバ情報

## 秋から冬生まれのムラサキイガイ ラーバはほとんど付着しません

### 1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ

ラーバは1月19日に久栗坂沖で1.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で0.8個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ

ラーバは1月19日に久栗坂沖で69.4個体/m<sup>3</sup>、川内沖で282.8個体/m<sup>3</sup>、1月25日に久栗坂沖で48.3個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。

#### (3) キヌマトイガイ

ラーバは1月19日に久栗坂沖で2.8個体/m<sup>3</sup>、川内沖で921.9個体/m<sup>3</sup>、1月25日に久栗坂沖で1.7個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図4)。

#### (4) ミネフジツボ

付着直前のラーバは見られていません(表1)。

#### (5) その他

アミクサの小枝とオベリア類のクラゲは見られていません(表1)。

※今後の見込みは裏面にあります

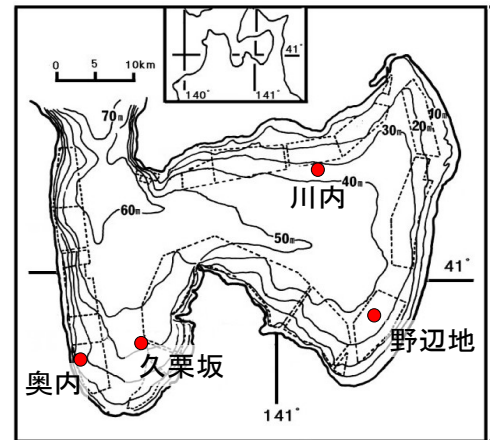


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ	オベリア類	
							クラゲ	アミクサ小枝
久栗坂沖※	R4.1.19	1.7	0.0	2.8	69.4	0.0	0.0	0.0
	R4.1.25	0.0	0.6	1.7	48.3	0.0	0.0	0.0
川内沖※	R4.1.19	0.8	0.0	921.9	282.8	0.0	0.0	0.0

※の久栗坂・川内沖は実験漁場内

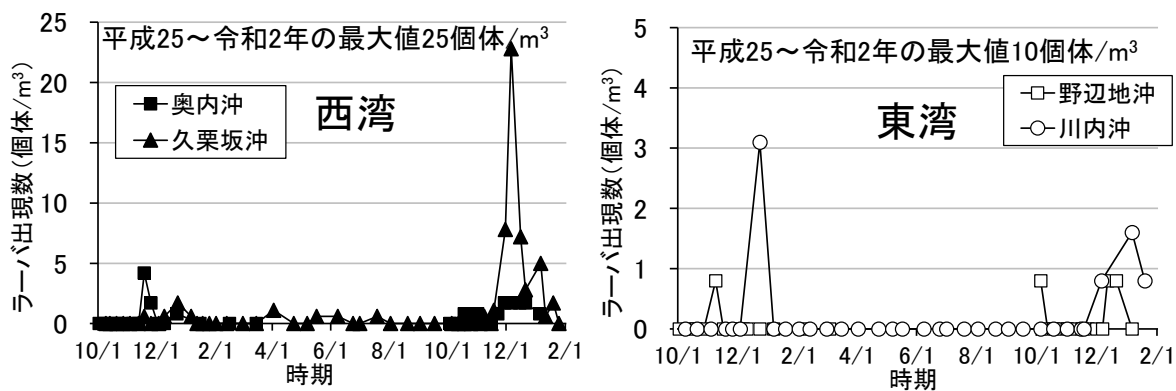


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

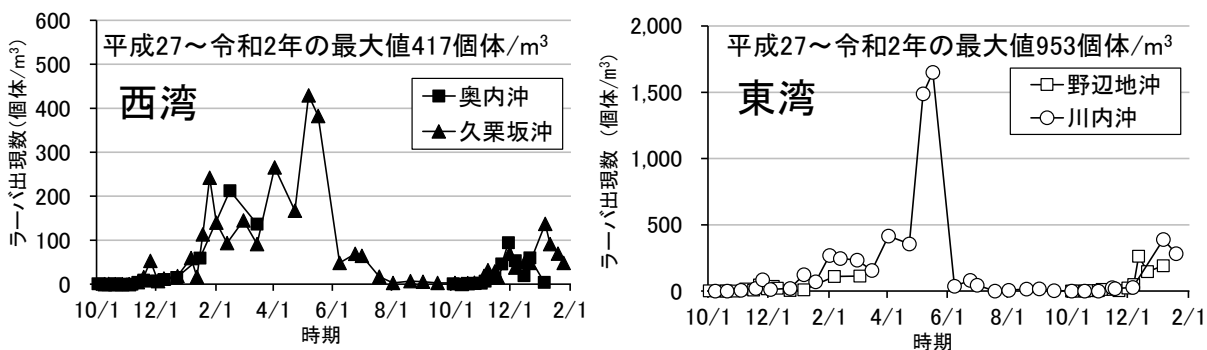


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

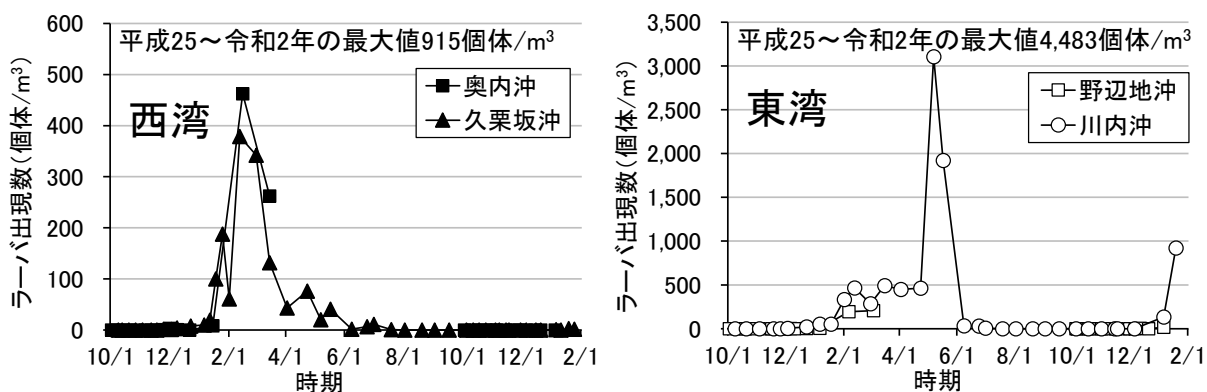


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

## 2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は4～10℃台に低下し、ユウレイボヤのラーバ出現ピークは過ぎています。

今季の久栗坂沖の累積ラーバ数が49.6個体/m³と非常に多くなっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの大量付着が見られています。今春の半成貝の出荷効率は低下するものと思われます。

ムラサキイガイのラーバが増加していますが、秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

ミネフジツボは例年1月下旬から2月にラーバ出現のピークを向かえることから、今後、出現する可能性があります。

キヌマトイガイのラーバ出現数が増加していることから、今後、籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加するものと思われます。

アミクサ小枝の本格的な出現やオベリア類の付着は今月以降になるものと思われます。

